

〔国際会議開催〕

申請者	名古屋工業大学 教授 本谷 秀堅	2245005
国際会議名	International Forum on Medical Imaging in Asia 2025 (IFMIA2025)	
会議ホームページ URL	https://ifmia2025.may-pro.net	
開催期間	2025 年 3 月 20 日～2025 年 3 月 21 日（2 日間）	
会場名称	かがわ国際会議場	
会場住所	香川県高松市	
開催形式	対面開催	
申請者の役割	General Chair	

貴財団にご助成いただいたことにより、下記のとおり IFMIA2025 を滞りなく、盛会のうちに終えることが出来ました。お礼申し上げます。ありがとうございます。

〔国際会議の概要〕

IFMIA の主題は CT や MRI などの医用画像の撮影技術や解析技術であり、会議においてはアジア全地域の工学者・医学者・科学者がお互いに当該分野の最新の知見を交換しあう。2007 年に第 1 回大会を韓国の済州島で開催して依頼、概ね 2 年に 1 回のペースで韓国、台湾、日本で持ち回り開催しており、今回は記念すべき第 10 回大会であった。

〔開催の目的〕

医用画像は患者の様態を医師が観察する上で必要不可欠のメディアであり、その撮像装置や解析技術の高度化は医療行為の安全・安心の改善に大きく寄与する。本国際会議の主な目的は、医用画像に関わる研究に携わるアジア圏の研究者が一堂に会して、対面でお互いに密に意見交換する場を提供することである。

〔開催の意義〕

最新技術に関する情報交換だけであれば、あるいはインターネットを介した情報の発信や取得だけで済むかもしれない。しかし、対面の場では、各研究者が抱えている懸案や着想を得たばかりのアイデアなど、本格的に研究に着手する前の様々な事柄を交換しあうことができる。また、各自の研究成果に対する率直で密なフィードバックも対面だからこそお互いに提供しあうことができる。韓国、台湾、日本のそれぞれに、過去 10 回すべての会議に参加している研究者も少なからずおり、本会議はアジア圏の医用画像分野の研究者コミュニティの維持・発展に大きく寄与している。

本会議は決して難関会議ではないため、本分野の研究に着手したばかりの学生や若手研究者の国際会議の初陣の場に選ばれることも多い。参加人数も決して多くはないため、会議の雰囲気はアットホームである。学生や若手研究者は、自分の研究について、国内外の様々な研究者から丁寧かつ真摯なフィードバックを得ることができる。アジア圏の本分野の若手研究者の育成にも、本会議は寄与している。

〔得られた成果〕

会議の参加者は 265 名であった。当初予定より 100 名ほど多く、盛会であった。国別の内訳は、日本 213 名、韓国 35 名、台湾 9 名、タイ 5 名、バンラディッシュ 2 名、中国 1 名であった。

採択した一般演題数は 125 件であり、その全てをポスター形式とした。どのセッションにおいてもそ

れぞれのポスターにおいて、活発な意見交換がなされた（図 1）。

招待講演には韓国、台湾、日本のそれぞれから 1 名ずつ、本分野の第一人者を招いた。医用画像に関連する研究にも、CT や MRI などの画

像を撮影する技術から、AI を用いて医用画像を解析する技術まで多岐に渡る。招待講演の内容も多岐にわたっており、画像撮影技術（韓国）、ヘルスケアシステム（台湾）、画像解析技術（日本）のそれぞれについて最先端の話題が聴衆の間で共有された。

〔得られた効果〕

本会議を通じて、若手を含むアジア圏の当該分野の研究者間の交流が促進された。IFMIA を次回は台湾で開催することも確認され、本会議の目的を意義深く達成することができた（図 2）。

今回は、LLM（Large Language Model: 大規模言語モデル）や VLM（Visual Language Model: 視覚言語モデル）などの、生成 AI に関わる演題が多数集まった。そこで会議二日目の最後に、Deep Discussion Session と題して、生成 AI を用いる医用画像解析について一般演題から選ばれた 4 名による口頭発表と、演者と聴衆との間における意見交換を行う場を設けた。聴衆の関心の高さも手伝って極めて活発な意見交換がなされ、関連分野に関心を持つ国内外の研究者間の交流促進ができたことも効果の一つである。

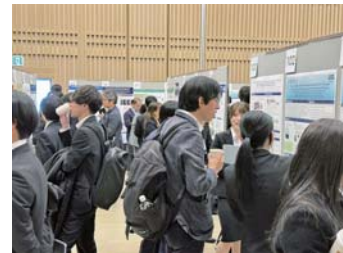


図 1 ポスターセッションの様子



図 2 アジア 6 カ国から 265 名が参加した